

月刊



平成25年2月1日発行 通巻205号
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可
 発行/公益社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館 3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

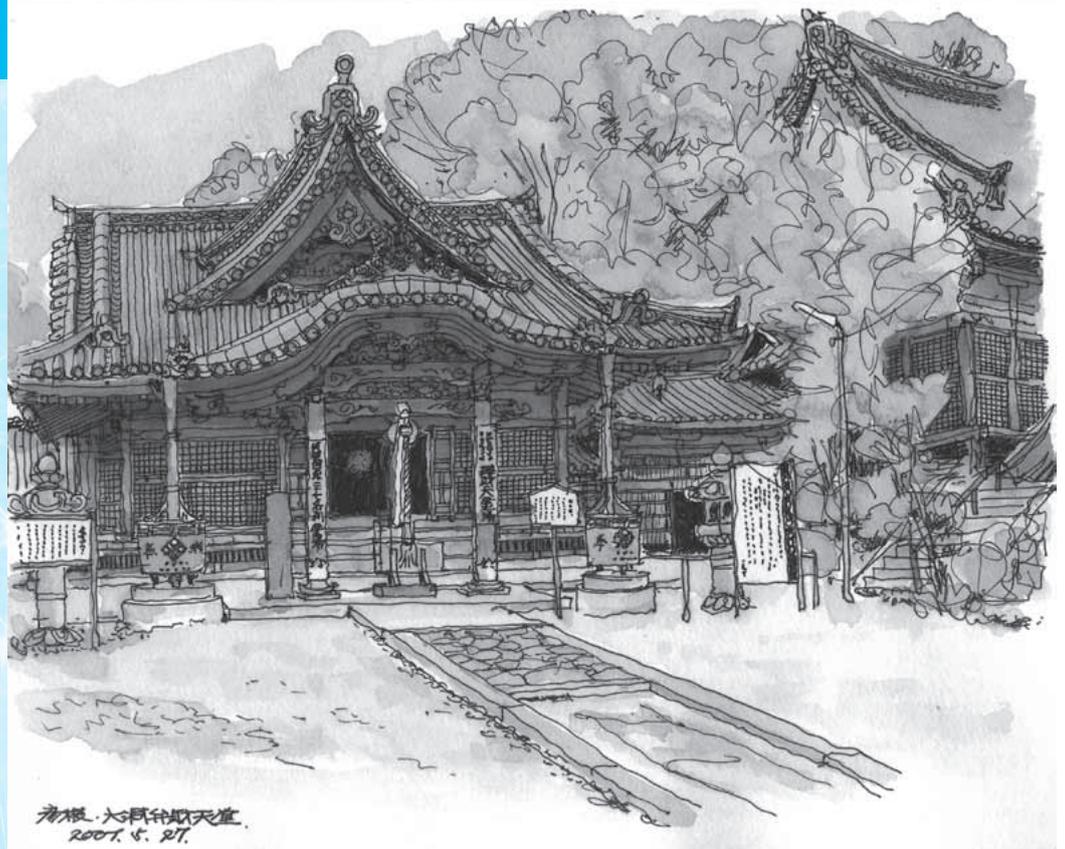
公益社団法人 滋賀県建築士会

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

湖国が滋る・水と緑の街づくり

CONTENTS

- ・ 渉外事業委員会 平成25年 建築関係合同
 同年賀会が開催されました…………… 2
- ・ 大津・湖西滋賀地区委員会
 平成24年度 建築フォーラム
- ・ まちづくり委員会 高校生の
 「建築甲子園」報告…………… 3
- ・ 青年委員会 あーき塾2013 2011年
 イグ・ノーベル賞受賞者 今井 眞氏
 『わさび臭気発生装置付 住宅用
 火災警報器 講演会』…………… 4
- ・ 青年委員会
 米原市大原小学校総合学習…………… 5
- ・ 青年委員会
 研修旅行2012 in 東京 事業報告…………… 6
- ・ アイ・湖国びと…………… 7
- ・ 地区だより…………… 8
 湖北地区
- ・ 2月の暦
- ・ 足のむくま 近江再発見 第5回



おおほらべんざいてん
 大洞弁財天 (彦根市)

彦根城の東北(表鬼門)の方角、大洞山の中腹にある真言宗醍醐派の寺院。正式には長寿院だが、日本三大弁財天の一つといわれる弁財天坐像を安置していることから大洞弁財天と呼び親しまれ、商売繁盛を祈願する人々でにぎわっている。日光東照宮建立の総奉行であった井伊直興が、厄除けと城を守る備えとして建立したもので、甲良大工によって建てられ、極彩色で欄間に眠り猫や象の彫刻があることから、彦根日光とも呼ばれている。また、建立の際に藩内すべての人に一文寄進を呼びかけ、寄進者25万9526人の名簿が整理され現存している。
 (滋賀県観光情報ホームページより)

平成25年 建築関係合同年賀会が開催されました

開催日：平成25年1月11日（金）

開催場所：大津プリンスホテル

参加団体：(公社)滋賀県建築士会（幹事）
 (一社)滋賀県建築士事務所協会
 (一社)滋賀県建築設計家協会
 滋賀県建築設計監理事業協同組合
 (社)日本建築家協会近畿支部滋賀地域会

平成25年1月11日(金)に大津プリンスホテル コンベンションホール「淡海」にて、「平成25年建築関係五団体合同年賀会」が、ご来賓を含め170余名の参加者で開催されました。



公益社団法人滋賀県建築士会 大津・湖西滋賀地区委員会
 滋賀県建築士会 大津・湖西滋賀地域会
 一般社団法人 滋賀県建築士事務所協会大津支部

平成24年度 建築フォーラム開催案内

日時：平成25年3月22日(金) 13：30受付開始 14：00～16：30

場所：大津市民文化会館 多目的ホール（大津市御陵町2番3号 TEL 522-7165）
 ※会場は、駐車場が少ないので、公共交通機関（電車、バス）をご利用ください。

定員：100名（FAXによる申し込み先着順とし、定員になり次第締切ります。3/18最終締切）

参加費：無 料

内容：(1)開会あいさつ（14：00～）

(公社)滋賀県建築士会大津地区委員長
 大津市都市計画部建築指導課長

(2)フォーラムの内容（14：10～16：20）

- （予定。変更の場合あり）
- ・省エネ基準の見直しについて
 - ・低炭素建築物の認定制度について
- （休憩 10分）
- ・既存不適格建築物の増築、容積率の緩和等について
 - ・大津市開発事業の手續及び基準に関する条例について
 - ・その他、質疑応答

講 師
 大津市都市計画部建築指導課
 大津市都市計画部建築指導課

大津市都市計画部建築指導課
 大津市都市計画部開発調整課

(3)閉会あいさつ（16：20～16：30）

(公社)滋賀県建築士会湖西滋賀地区委員長

平成24年度 建築フォーラム 参加申込用紙

会員/会員外	お 名 前	ご 住 所	当日連絡先(携帯TEL)	FAXまたはメールアドレス
会 員・会員外				
会 員・会員外				

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 **(FAX.077-523-1602)** (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

3年連続入賞!! 安曇川高校



滋賀県立安曇川高等学校
外来魚。～新しい地域の暮らし～



「高校生の『建築甲子園』」で、安曇川高校の生徒が手掛けた「外来魚。～新しい地域の暮らし～」が全国準優勝に輝き、第1回大会の優勝、第2回大会の準優勝に続いて、3年連続の全国入賞となった。滋賀県建築士会としてもうれしい結果となりました。

詳細は、日本建築士会連合会ホームページに掲載されていますので是非ご覧ください。

2012年 建築甲子園結果

成績	高校名	応募作品タイトル
優勝	山梨県立甲府工業高等学校	甲州ぶどう産木通り
準優勝	滋賀県立安曇川高等学校	外来魚。～新しい地域の暮らし～

<準優勝>No.25：滋賀県立安曇川高等学校「外来魚。～新しい地域の暮らし～」
滋賀県高島市マキノ町は、琵琶湖湖畔にあって四季の変化が美しく、名所や旧跡の文化と里山の風景を残した、農業・漁業・林業を営む地域。そこに琵琶湖漁業や生態系に歪みを生じさせる外来魚の問題が生じ、県は大掛かりな外来魚捕獲駆除に取り組んでいるという。その一方で害魚として排除するだけでなく、食育による外来魚利用を指向するなど、琵琶湖地方に昔からあった「つくり育てる漁業と漁業者の育成」に取り組んでいく、その中心となる拠点施設計画を提案した。新しい地域の暮らしを発想したところがいい。
湖畔に建つであろう建物の構成が明快で、水平線の広がる湖畔の風景の中にキリッと建つ姿を想像すると、上記の意図と仕組みをリードしていくに相応しい、頼もしい姿が目につく。特に図面の真中に置かれた断面は、一方が湖水、他方が陸上で、この建物の中で行われる仕組みが明快に表現され魅力的である。
トーナメントを順調に勝ち進んだが、この拠点施設の構成が明快であるだけに、周辺に広がる住宅や営まれる暮らしとの距離が気になるとの指摘があり、残念ながら決勝戦で破れてしまった。とは言え、例年素晴らしい作品をまとめてきており心からの讃辞を送りたい。再びのリベンジを期待しているよ。(片山)

～推薦作品評～

かつて私達の先祖は琵琶湖のほとりに水を求めて移り住んだ、そして、母なる琵琶湖と共にこの地で生計をたててきた。この地域は緑豊かな周囲の山々と湖によって育まれた農業・漁業・林業が人々の生命と暮らしを支えてきた。しかしながら時の流れと共に近年自然環境は急激な変化をきたし今や地域の人々の「暮し方」や「住まい方」にまで大きな変化をもたらしている。

琵琶湖においても自然の生態系に歪をきたし一大ピンチを迎えている。

その中で漁業に一例をとってみるとこの地域の人々の唯一の蛋白源であった琵琶湖固有種の魚の稚魚を外来魚（ブラックバス・ブルーギル）が根こそぎ食いつくすこととなり、今や絶滅危惧種にまで追い込んでいる。

滋賀県でも積極的な対策を講じているものの、なかなか解決策が見当たらない現状である。

そこでこの作品は、漁業において外来魚の駆除と同時に、この地域の先人の残した生活の知恵を生かし、これをベースとして新しい地域の「暮し方」「住まい方」を建築を媒体として創り上げているところが素晴らしい提案である。

即ち、外来魚の駆除が引き金となって漁業では伝統漁法の「エリ漁」をはじめとして伝統、習慣を基本とした新しい漁業経営の活性化により漁業就業等の確保と後継者の育成に繋がれば幸甚であり、そこから生まれる「食育」も試行錯誤の末新しい活路が開けるであろう。また、地域の気候と風土の特性を活かした「雪室」の再生、自然の恵みを大切にした「魚のゆりかご水田米」等新しいユニークな建物を中心として暮らしの新しいローテーションが出来上がるのではないだろうか。

「地域の新しい暮らしは先人の過去の知恵に学びその上に現代をどう唱いあげるかということである」

審査委員長 本城 博一

あーき塾2013 2011年イグ・ノーベル賞受賞者 今井 眞氏
『わさび臭気発生装置付 住宅用火災警報器 講演会』

青年委員会では、今年度3回目となります「あーき塾」を開催します。今回は、滋賀医科大学の今井 眞 先生をお迎えし、『わさび臭気発生装置付 住宅用火災警報器 講演会』を行います。

今井先生は、2011年度『わさび臭気発生装置付 住宅用火災警報器』の開発により、「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に対して与えられる『イグ・ノーベル賞（化学賞）』を受賞されています。『わさび臭気発生装置付 住宅用火災警報器』は、もともとは聴覚障害者や耳の遠い老人向けに危険を察知させるべく「嗅覚に働きかける」というコンセプトから開発されたシステムで、既に実用化もされています。火災等による煙を感知すると装置が作動し、「わさび臭」を噴出させ、その刺激により目を覚ますとのことで、数ある匂いから「わさび」を選びとったところがイグ・ノーベル賞授賞のポイントであったそうです。そんな柔軟な発想や、開発に関する思いをお話して頂く予定です。

また、大津市消防局のご協力を頂き、講演前に住宅用火災警報器の設置義務やその必要性・維持管理等についてのご説明を頂きます。住宅を手掛けられた方なら誰でも一度は耳にしたことのある「住宅用火災警報器」について今一度その必要性を再確認し、建築士として住宅火災被害の減少に努める為の一助をしたいと思っております。

建築士会の会員だけでなく、どなたでも無料でご参加頂けますので、ご近所お誘い合わせのうえ、沢山の方々のご参加をお待ちしております。



ロンドン科学博物館の展示



講師プロフィール

今井 眞 (いまい まこと)

1962年（昭和37年）生まれ。浜松医科大学医学部卒。

1989年（平成元年）医師免許取得。現在は、滋賀医科大学精神医学講座・講師として活躍。2011年（平成23年）に「イグ・ノーベル賞（化学賞）」を受賞、同年「ナイスステップな研究者（文部科学省科学技術政策研究所）」にも選定されておられる。兵庫県伊丹市出身。現在は、草津市に在住。

【開催日時】 平成25年2月13日(水) 18:30受付開始 19:00開始 21:00終了（予定）

【場 所】 大津市ふれあいプラザ 大会議室
滋賀県大津市浜大津四丁目1番1号 明日都浜大津5階

【参加費】 無料

【定 員】 50名（申し込み先着順）

【CPD単位】 2単位（予定）

【申込方法】 下記申込用紙に必要事項をご記入頂き、滋賀県建築士会 事務局へFAXをお願いします。
※前日までに受付確認及び会場までの交通・駐車場等のご案内をさせていただきますので、FAXまたはメールアドレスを必ずご記入下さいますようお願いいたします。

【申込締切】 平成25年2月10日(日)
※手話等手配のため、手話等が必要な場合は、締め切り日厳守でお願いします。

好評申込受付中!!

あーき塾2013 2011年イグ・ノーベル賞受賞者 今井 眞氏 講演会 参加申込用紙

会員/会員外	お 名 前	当日連絡先(携帯TEL)	FAXまたはメールアドレス	手話等の必要性
会 員・会員外				手話・口述筆記
会 員・会員外				手話・口述筆記

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 (FAX.077-523-1602) (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

青年委員会では昨年10月31日(水)から全4回にわたり米原市立大原小学校5年生を対象とした総合学習を開催しました。大原小学校は校舎建替えの際に、地元の間伐材を多く使用しています。今年度は「木の旅」をメインテーマに建築の楽しさや環境の大切さを子供たちに知ってもらう学習を行いました。

○第1回「導入学習」 10月31日(水)

大原小学校を設計された千葉薫氏にご協力頂き、木の学校ができるまでの経緯をスライドを通して子供たちにお話して頂きました。「大原小学校に隠された秘密を知っていますか?」「校舎に使われている木はどこからきたのでしょうか?」このような質問を子供たちに投げかけ、今後の学習意欲を高めました。



導入学習

○第2回「森できこり」 11月6日(火)

校舎で使われた木は近くの森から伐られたことを知り、みんなで森に出かけました。森では、杉と桧の見分け方や明るい森と暗い森を実際に目で見ることができました。子供たちは「間伐」「木登り」「丸太切り」を体験し、森での仕事を学び、森を守るために間伐が大切であることを学習しました。



森できこり

○第3回「製材所・森林組合見学」 11月22日(木)

森で伐られた木が運ばれる製材所と森林組合の見学を行いました。そこでは原木を機械に通し、柱や板、杭などに加工されていました。日本以外にも世界各地から集まった多くの木があることを知ることができました。また学校では「びわこの森が泣いている」というDVDを観賞し、森がたくさんの生命を育み、人々の生活を支え、空気や水をきれいにしている力があることを学習しました。



製材所森林組合見学

○第4回「木のパズル・大工見習い体験・まとめ」

11月29日(木)

間伐材で作られたキューブ27個を使い6つのピース作り、それを組み合わせて1つの立方体を完成させる木のパズル作りをし、大工さんに木の材種や道具の説明を受けたあとカンナ掛けに挑戦しました。まとめ学習では、今までの学習を振り返りながら、間伐の大切さ、森の持つ力、木で造られた日本各地の建築物などを子どもたちに問いかけながら、大原小学校に隠された秘密…この校舎に関わった多くの人たちの「地球環境を守りたい」という思い…を感じてもらうことができました。



木のパズル・大工見習い体験 まとめ

4回の学習を通じて、一生懸命学習に取り組む子どもたちと有意義な時間を共有することができました。私たち委員にとりまして今後の仕事に活かせる事業になったと思います。最後になりましたがご協力頂きました千葉薫様、鳥居木材株式会社様、滋賀北部森林組合様、本当にありがとうございました。

青年委員会は去る12月15日(土)～16日(日)に研修旅行2012 in 東京を開催しました。

今年度は、例年よりも開催時期が少し早まり12月の開催となりましたが、30名のご参加を頂きました。

1日目は、「東京都勝島ポンプ所流入管渠工事」の工事現場にて、工事を施工されている前田・鴻池・大日本特定建設共同企業体 立会川作業所 所長の北村氏に工事概要の説明を頂いた後、シールド工事を施工された流入管渠内の見学をさせて頂きました。『大断面・急曲線のトンネル』は世界でも例を見ないという代物で、そのスケール感に驚きました。限られた敷地や他の構造物等の影響により、急曲線やS字にせねばならず、難しい工事を精度良く施工されていました。

続いて、場所を移動し、2011年11月にあき塾で「東京スカイツリーの構造設計」の講演をして頂いた、(株)日建設計の小西氏を再度お招きし、東京スカイツリーのお話しをして頂きました。翌日にスカイツリーに登頂予定ということもあり、あき塾とはまた違ったお話して、大変興味深く聞かせて頂きました。

夜には、ホテル近くの飲食店にて、参加者の皆さんと小西氏を囲み、懇親会を行いました。会員間の交流はもちろんのこと、先の講演で聞けなかったことなど、小西さんにご質問させて頂き、大変盛り上がった懇親会となりました。懇親会終了後は、一旦解散となりましたが、夜のスカイツリーを見に行かれた方や、繁華街で楽しく過ごされた方、ホテルでゆっくりされた方など、それぞれが東京の夜を楽しまれたようです。

2日目は、まず、東京スカイツリーに向かいました。前日の雨模様とは一転、雲一つ無い晴天となり、東京スカイツリーの展望台からは、富士山もすっきり見えまして、最高の眺めでした。

浅草で昼食・近隣散策の後、東京駅に向かいました。昨年10月に工事は完了されておられますが、工事を施工された東京駅丸の内駅舎保存・復原工事共同企業体(鹿島・清水・鉄建建設共同企業体)の現場事務所にて、所長の金丸氏より、工事概要の説明を頂いた

後、復原されたドームや3階部分などを中心に、東京駅のご案内を頂きました。

今回の研修旅行では、1日目・2日目共に、普段は見られない現場や聞けないお話ばかりで、本当に充実した研修旅行であったと思います。

最後になりましたが、ご参加頂きました皆様、大変お疲れ様でした&ありがとうございました。



2日目：スカイツリー外観



1日目-1：工事説明



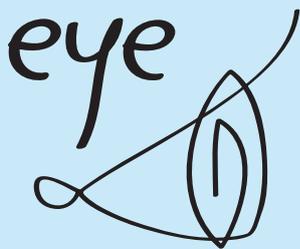
1日目-1：現場内



1日目-2：小西氏



1日目-2：講演風景



— アイ・湖国びとの愛情視線 —

県立安曇川高校教諭
第14回 太田 明博さん

設計競技にかける情熱

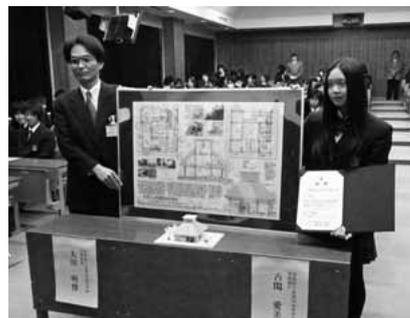


おおた あきひろ
太田 明博さん

1971年兵庫県生まれ日本工業大学卒業。県立安曇川高校の建築デザイン系列の担当教諭。スキー部の顧問でもある。高島市今津町在住。

全国の大学などが主催する高校生対象のコンペ（建築設計競技）で毎年優秀な成績を収め、強豪校として名をはせる県立安曇川高校（高島市安曇川町西万木）。2004年に同高に赴任以来、建築設計競技の指導に取り組み、これまで61人の生徒を後押ししてきた。そのうち36人は3位以内に入賞という輝かしい成績を収めている。

自身も工業高校で勉強をする中で設計競技に夢中になった。「ゼロから生み出すことが面白くて、やればやるほどのめり込みました。そうして次に興味を持ったのが後輩の指導です。教師として教えることが夢になりました」。指導するにはプロになってからと工業大学に進み、卒業後は大阪のゼネコンに入社した。現場監督や設計の仕事しながら1級建築士の資格を取得した年に教員採用試験を受け、30歳で念願の教師となった。



第1回高校生の建築甲子園で優勝した作品の表彰式(同校で)

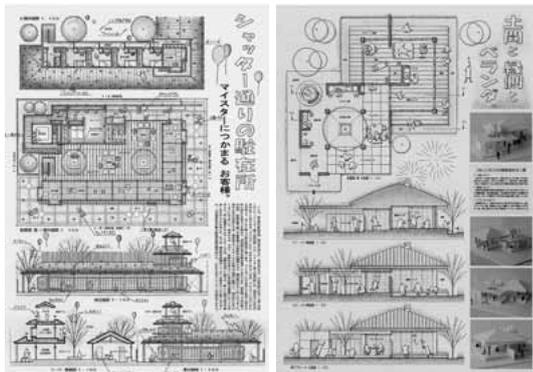
ただ、赴任した安曇川高校は工業高校ではなく総合高校。生徒たちにコンペ参加を持ちかけたものの、当初は“建築設計競技って何？ 夏休みにやるの？ 入賞なんてムリ…”と反応は消極的だった。「挑戦することになった3人も多少関心を持った程度で、この日は絶対来いよと約束させて半ば強引な形で始まり

ました」。与えられたテーマに沿った建築物を図面や模型、写真、説明文などを入れてパネルに仕上げ、アイデアを表現する。テーマをどう捉えるか、図面を見るのも引くのも初めてと戸惑う生徒にヒントを与えながら、誘導する形でつきっきりで指導した。「完成までの道のりは、生徒をバイクの後ろに乗せて突っ走るような感じ」だったという。

結果は九州産業大学のコンペで1等、日本大学で2等となり周囲を驚かせた。新聞などメディアで多く取り上げられたことで注目は一気に高まり、自分もやれば出来るかもしれないと生徒たちの姿勢が一変。挑戦する生徒が年々増えた。「1回目はついていだけで精一杯だったのが2回目は考えられるようになります。これ以上はないと練り上げた案をあえて突き放すことでさらに次の段階が見えてくる。そして3回目になると自分だけで進められるようになり、化ける子が出てきます」。08年には22作品中21作品が入賞する快挙を成し遂げた。10年から始まった日本建築士会連合会主催の「高校生の建築甲子園」でも、初優勝以来3年連続入賞と強さを誇っている。

先輩に続けと志願する生徒の意識レベルは高く、夏休み返上はもちろんのこと、指導を受けられる日はいつかと逆に追い立てられるようになった。大きな賞を取りたい、取れると信じる生徒たちの熱い思いを感じる。「うれしい反面、教師生活が長くなると他の仕事が増えて思うように時間が作れないのがジレンマ。今までの作品が見本となって指導時間不足を補っている状態です。今後はクラブにするなど組織としてのシステムが必要だと考えています。同時に、建築を志す生徒たちの就職先を広げるため、人材を求める企業の声も集めていきたい」と話した。

(取材：M. Y)



様々な表現方法で提案した設計競技のパネル

湖北地区

湖北地域会第3回講習会を開催

湖北地域会では、去る1月12日(土)長浜の「開知学校」(明治7年に県下初の滋賀第1小学校の校舎として建てられた木造3階建)に於いて「東京スカイツリーの構造設計」と題して(株)日建設計 構造設計部主管の小西厚夫先生を講師としてお招きし、第3回講習会を開催いたしました。

講習会に先立ち今回の会場「開知学校」の説明を伊藤副会長にいただきました。

講習会では、小西先生に東京スカイツリーの構造について模型や映像を使って分かりやすく説明いただきました。敷地・施工性・デザイン・構造・コストなど様々な条件をしてクリアし、大変苦勞された結果、現在の形になった事など設計者として

の貴重な話が聞け、非常に充実した講習会になりました。

当日は、女性委員会、高島地域会の会員の皆様にもご参加いただきありがとうございました。

また講習会のあと小西先生を囲んで女性委員会の皆様と湖北の冬の味覚“鴨すき”を食べながら懇親を図りました。



開知学校の説明・伊藤副会長



講習会の様子



講師・小西厚夫先生

2月の暦

1	金	友引	子ども立体作品展 「建築士」フェスティバル	10	日	先勝		19	火	仏滅	
2	土	先負	子ども立体作品展	11	月	友引		20	水	大安	
3	日	仏滅		12	火	先負	あーぎ塾	21	木	赤口	
4	月	大安	女性委員会	13	水	仏滅		22	金	先勝	
5	火	赤口		14	木	大安		23	土	友引	
6	水	先勝		15	金	赤口	四役会・理事会 情報広報委員会	24	日	先負	
7	木	友引		16	土	先勝		25	月	仏滅	
8	金	先負		17	日	友引	第4期 所属建築士定期講習	26	火	大安	
9	土	仏滅	二級・木造建築士交付式	18	月	先負		27	水	赤口	
								28	木	先勝	

足のむくまま
近江再発見

おおほらべんざいてん
大洞弁財天(彦根市)

大洞弁財天周辺には井伊神社、清涼寺、佐和山城跡や月刊「家」Vol.197で紹介した龍潭寺などがあり、見どころの多い場所である。

清涼寺は、関ヶ原の戦い後、佐和山に18万石が与えられた井伊直政死後、2代直勝が石田三成の家臣島左近の屋敷跡に創建し以後、井伊家の菩提寺である。また直勝は彦根城を築城している。

大洞弁財天への怖いぐらいの急な石段を上り、山門をくぐって振り返ると目の前にまっすぐ彦根城が望め、この位置関係に感動すら覚える。

